



Title	ディスカッサントⅡ
Author(s)	金子, 肇
Citation	OUFCブックレット. 2014, 5, p. 113-114
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/50109">https://hdl.handle.net/11094/50109</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## ハンドアウト

金子 肇

### 1. 「政治史」と銘打たれた近現代史概説書の登場

<国家>を軽視してきたことのしっぺ返し？

- ・中国という<国家>の強大化と自己主張 日本の<国家>主義的回帰
- ・中国史研究は、かかる現状を歴史的に把握する方法を有していただろうか？

<国家>史を基軸とした<政治>史の方法的構築

両著の方法的視座 <国家>への注目

- ・『20世紀』：対内的・対外的国家支配の正統性の変容
- ・『近現代』：国家統合と国家形成、国家としての統合と分裂

### 2. 近現代中国政治史・国家史と憲政

<議会>の政治史分析上の意義

- ・近現代中国と「立憲主義的な拘束」（民意の代表という観念による拘束）  
\* 野村浩一
- ・「民意」を表出し担保する存在 支配の正統性の根拠は<議会>に収斂する
- ・統治形態（国家意思の形成・決定・執行に関わる中央権力の制度的構成、とくに立法・執行両権の関係） <国家>と<国民>の制度的結節点
- ・国家アイデンティティ形成、国民形成の制度的ステージ  
支配の正統性から<議会>・<憲政>に注目する『20世紀』

- <議会>・<憲政>への視点が希薄な『近現代』
- 議会史を基軸に据えた憲政史、憲政史を中心とした政治史・国家史の可能性
- ・議会権力の強化を「民主」の制度的強化と同一視する近現代中国の立憲的志向
- ・西欧的議会制から議会権力の擬制化へ（国民大会　人民代表大会）

### 3. 政治史研究の方法をめぐって

- 日本史における政治史研究の対象
  - ・社会・経済の過程・構造から相対的に独立した「政治的世界」（制度及び制度運用を背景とした権力・勢力、人的関係、政治家の政治理念や思想、それらの交錯・抗争・提携・妥協の結果として、政治的合意が形成され国家意思が確定していく政治の過程と構造）　日記・書翰・編纂文書等の駆使
  - \* 概説書の手頃なものとして坂野潤治『日本近代史』
- 中国史における方法・枠組み
  - ・国家意思決定に「地方」が参与・介入する中国の政治的伝統 + 民国期の政治割拠
  - ・統治体制の「政治構造史」的分析（『近現代』第1章：川井）
  - ・「社会構造史」的政治史 / 「社会政治史」（金子）：中央 and/or 地方の政治的展開を社会・地域の構造・動態・反応との相関関係のなかで分析
- 日本史の近現代政治史研究に学ぶ必要性

#### 【参考】

- 金子肇「中華民国の国家統合と政治的合意形成」（『現代中国研究』3、1989年）  
金子肇「近代中国における民主の制度化と憲政」（『現代中国研究』31、2012年）  
金子肇「近現代中国政治史研究の方法と新聞史料をめぐる雑感」（『広島東洋史学報』17、2012年）